

資料 3

【発達障害児者地域生活支援モデル事業】
「障がい児通所支援事業所でのペアレント・
トレーニング実施における支援体制の構築」

令和7年度 発達障害児者地域生活支援モデル事業報告

令和8年2月19日

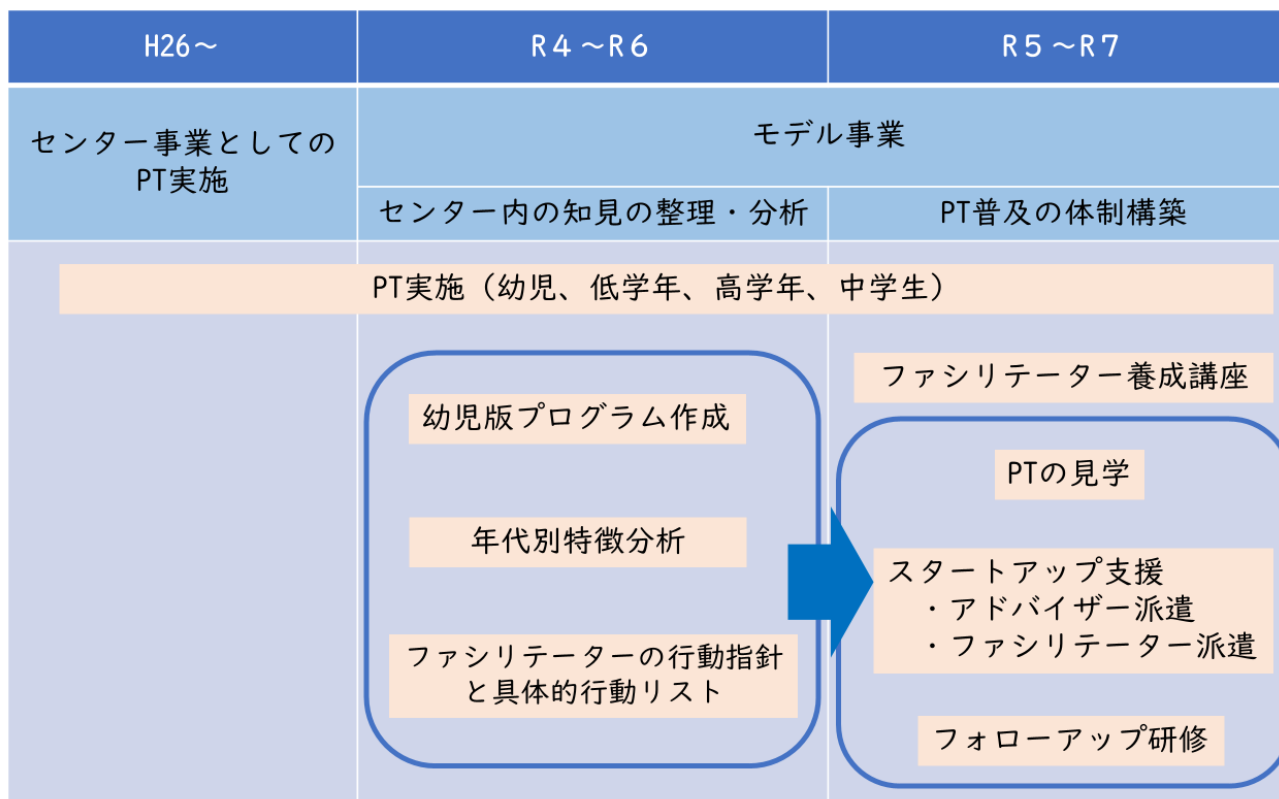
障がい児通所支援事業所での ペアレント・トレーニング実施における支援体制の構築

【事業目的】

大阪市では、平成26年度より幼児期・学齢期(低学年・高学年)、思春期と年代別にグループ編成したペアレント・トレーニング(以下「PT」と略す)を実施してきた。モデル事業としては、令和4年度から6年度にかけて、PT参加者の年代ごとの特徴分析によるPTのプログラム作成とファシリテーターの行動リスト作成、令和5・6年度は、ファシリテーター養成講座の実施や、当センター主催PTの見学、PT実施事業所へのスーパーバイズ(以下「SV」と略す)を通して、地域の事業所でPTを実施するためのサポート体制の構築に取り組んだ。

今年度は引き続き、ファシリテーター養成講座、当センター主催PT見学の受け入れ、SVを実施する。また、新たな取り組みとして、ファシリテーター派遣とフォローアップ研修を実施し、PTを導入しやすくなるような支援や、継続的にファシリテーターを支援する仕組みを構築する。

【これまでの取り組み】



【ファシリテーター養成講座の実施】

- ・日時 : 令和7年9月8、9日 10:00~16:00
- ・場所 : 新大阪丸ビル別館
- ・講師 : 森千夏先生 (筑波大学 ヒューマンエンパワメント推進局 助教)
- ・参加者 : 15人
大阪市内で発達障がい児支援に携わっている障がい児通所支援事業所の職員(10人)、
区の家児児童相談員・保育士等(5人)で、支援経験5年以上の方

【PT見学】

- ・見学者 : 令和6、7年度ファシリテーター養成講座受講者で、見学を希望する4人
- ・見学するグループ : 当センター主催の幼児グループ(基本プラットフォームを応用したプログラムを使用)

【スタートアップ支援】

- ◆子育て広場A ・PT実施2年目。
 - ・6月13日~11月14日 月1回 6回連続講座を実施。
 - ・9月12日 4回目にエルムおおさか職員が参加し、セッション内で補足説明や、セッション後のSVを実施。
- ◆B事業所
 - ・9月11日~11月20日 概ね2週間に1回 6回連続講座を実施。
 - ・令和5年度のファシリテーター養成講座を2人受講。
 - ・PT準備期間にエルムおおさか職員が質問や相談へ対応し、10月9日3回目の講座に参加し、補足説明や、SVを実施。
- ◆C事業所
 - ・9月22日~12月15日 概ね2週間に1回 6回連続講座を実施。
 - ・令和5~7年度のファシリテーター養成講座を計4人受講。
 - ・PT準備期間にエルムおおさか職員が質問や相談へ対応し、ファシリテーターとして6回参加。
 - ・ファシリテーターはエルムおおさか職員、サブスタッフはC事業所職員2~3人で実施。
 - ・セッション前に打ち合わせ、セッション後に振り返りの時間を確保。

【ファシリテーター フォローアップ研修】

- ・日時：令和7年12月11日 10:00～12:00
- ・場所：あべのハルカス貸会議室
- ・参加者：12人 令和5～7年度ファシリテーター養成講座参加者
- ・内容：実践報告「子育て広場A」「C事業所」「エルムおおさか」、グループディスカッション、質疑応答

＜事前質問＞

- ・参加者の集め方や、アナウンスの仕方をどうしているか
- ・重度のお子さん用のPTを知りたい
- ・料金やスタッフの人数について知りたい

＜ディスカッション内容＞

「実践報告を聞いた感想、立ち上げに関する質問、意見、等」

◆課題の抽出

- ・小規模事業所でPTを行うことの難しさ
- ・立ち上げ方(トップダウン:管理者から / ボトムアップ:一般職員から)の違い
- ・一緒にPTをする職員の育成の困難
- ・マニュアルにない情報の必要性
- ・基本プラットフォームの対象(3歳～小3)ではない人へのプログラムの必要性

◆地域の支援者同士のネットワーク(課題や工夫の共有、勉強会発足)

◆各事業所でPTを立ち上げる中核となる人物のエンパワメント

- ・PTを志す人との共感
- ・具体的知識を得た安心感

ペアレント・トレーニング ファシリテーター養成研修受講者対象

ファシリテーター フォローアップ研修

主催：大阪市発達障がい者支援センター エルムおおさか

エルムおおさかがペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修を開始して、3年目を迎えました。この度、事業所での実践に向けての取り組みや、実施に際しての困りごとや悩みなどをお話していただけるフォローアップ研修を開催いたします。実践を行っている事業所の方のお話や、グループディスカッションを通して、養成研修の振り返りや実践に向けての課題や工夫について考えてみませんか。ぜひご参加ください。

【当日の予定】

10:00～11:00【実践報告】 ① つどいの広場こもれび
② 更生療育センター
③ エルムおおさか
11:00～12:00【グループディスカッション】

【日時】2025年12月11日(木) 10:00～12:00
(9:50受付開始)

【会場】あべのハルカス 貸会議室 23F セミナールーム
※あべのハルカス23F キャンパスフロアにあります。
地下1F エレベーターから17Fへ行き、オフィスフロア低層階(17～25F)用エレベーターで23Fまで上がってください。直達エレベーターはありません。
【住所】〒545-6025 大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43 あべのハルカス 23F
【アクセス】各線「天王寺」駅すぐ

【対象】令和5年度～7年度 実施のファシリテーター養成研修参加者

【定員】15名(先着順)

【参加費】無料

【申込方法】申込期間：2025年9月24日(水)正午～11月5日(水)正午
申込期間中に下記 URL もしくは QR コードから google フォームでお申し込みください。

<https://forms.gle/Y3qyS2p21vhkzAR28>

こちらからも
お申し込みできます



※申込期間になりましたら上記フォームからお申し込みが可能です。
Google フォーム以外の受付は行っていません。

※定員に達した場合は、締切前に申込フォームを閉めさせていただきます。

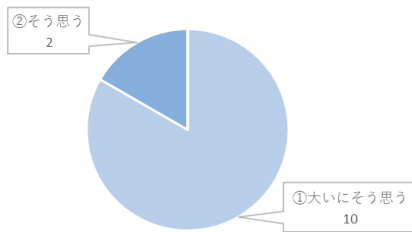
お問い合わせ先：大阪市発達障がい者支援センター エルムおおさか
Tel: 06-6797-6931 Mail: elmosaka@fukupo.org

【ファシリテーター フォローアップ研修】

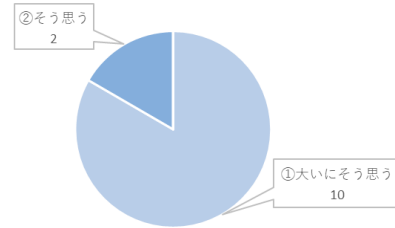
◆アンケート結果

- ・参加者12人にアンケートを実施(回収率100%)
- ・問1～4は、「大いにそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の4件法で回答
- ・アンケート結果として、概ね肯定的な結果が得られた

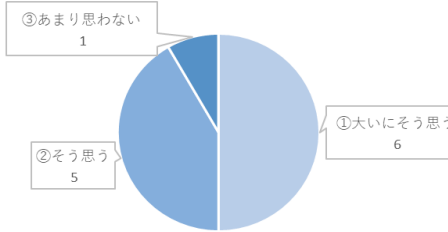
本研修の内容に、満足しましたか。



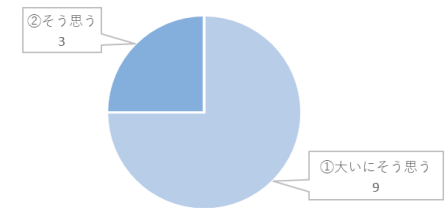
ペアトレの実践に役立つ内容だった。



専門的な知識が得られ、
自分の考えを深めることができた。



さらに学びを広げたいと思った。



◆感想(自由記述)

- ・立ち上げの経緯や、課題や工夫の仕方が良く分かった。
- ・PT実施の意欲が沸いた。良い刺激になった。
- ・少人数だったので、質問や疑問を聞きやすかった。
- ・具体的に質問に答えてもらえてよかった。
- ・時間が足りなかった。

フォローアップ研修に対する満足度や役立ち度は高く、「PT導入の課題や工夫を共有し、**地域の支援者同士のネットワーク構築の基盤を作る**」という目的は達せた。実際にPTを立ち上げた事例を知る事で、自身の事業所への具体的な導入方法を検討したり、PT実施を志す支援者のエンパワメントとなった。

障がい児通所支援事業所での ペアレント・トレーニング実施における支援体制の構築

R5～7年度の実績

◆ファシリテーター養成講座受講者

R5年 15人 11事業所
R6年 14人 14事業所
R7年 15人 14事業所(4行政機関を含む)
計 : 44人 36事業所(4行政機関を含む)

◆PT実施

R6年 1事業所 1グループ 参加人数6人
R7年 3事業所 3グループ 参加人数17人
計 : 3事業所 4グループ 参加人数23人

R8年度の予定

◆PT実施決定 3事業所 4グループ
子育て広場A 1グループ
B事業所 2グループ
C事業所 1グループ

◆準備中

2事業所

①地域自立支援協議会 こども部会での共同開催を模索中

②令和9年度開催を目標に事業所内で会議を重ねている。

ファシリテーター養成講座受講者が講師となり、職員にPTの研修を実施。

一緒にPTを実施するチームを作り、チームの職員がエルムおおさか主催研修に参加して学びを深めている。

課題

ファシリテーター養成講座、PT見学の受け入れ、スタートアップ支援(アドバイザー・ファシリテーター派遣)、フォローアップ研修を実施し、PTを導入しやすくなるような支援や、継続的にファシリテーターを支援するための体制構築に取り組んだ。フォローアップ研修やスタートアップ支援を通して、「小規模事業所でのPT実施の困難」「ボトムアップの立ち上げ方」「小学4年以降の思春期や**重度の障がいをもつ子ども向け**のプログラムの必要性」といった課題が明らかになった。今後は、養成体制を継続するとともに、小規模事業所やボトムアップのPT実施を可能にするようなモデルケースをつくることが求められる。また、思春期や**重度障がい用**のプログラムが必要となる事業所もあることから、**学術団体等へ専用のプログラム作成を提言したい。**